

■ 平成28年8月29日 経済労働委員会県内調査

1 株式会社アンズコーポレーション奈良工場（葛城市董）

【調査目的】新工場の操業状況について

【調査概要】化粧品の生産工場の概要について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

<説明の概要>

- ・ 本社：大阪府中央区谷町
- ・ 富田林工場：リップスティック製剤の自動化大量生産ラインや溶融充填等の特殊な生産に対応。また、手作業が可能な包装ラインにて手をかけた高付加価値製品や小ロット製品の生産を行う。富田林工場はマザー工場としての人材育成の場でもある。
- ・ 奈良工場：鉄骨造6階建、敷地面積 13,037 m²、建物面積 4,432 m²、延べ床面積 12,845 m²。最新鋭の生産設備を導入し、大半の作業を自動化し効率生産している。
- ・ 生産実績
 - <化粧品・医薬部外品>
 - クレンジング、洗顔、ローション、エッセンス、乳液、クリーム・ジェル（UV含む）
 - シャンプー、トリートメント、リップスティック（固形）、制汗剤（固形）
- ・ 検査体制
 1. 受入検査（原料・材料）
 2. 製剤検査
 3. 工程検査（抜き取り・全般）
 4. 製品検査
 5. 出荷判定
- ・ クリーンな環境維持への取り組み
 1. 定期的な環境測定
浮遊微粒子、落下菌、陽圧管理（差圧・風向・風量）
 2. 防虫管理
専門業者により毎月実施
 3. 3つのゾーン別の服装・手洗い規定
- ・ 品質改善への取り組み
GMP委員会、品質会議、品質改善委員会、気付き提案制度
3S3T（整理・整頓・清掃・定品・定位置・定数）
5分間5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）
- ・ 奈良工場 地域社会への貢献
災害発生時に防災一時避難所として指定を受けている。
災害用備蓄品の常備
（食料・水・毛布・マットレス・簡易トイレを100名、10日間分）



2 中部農林振興事務所（橿原市常盤町）

【調査目的】管内の農業と担い手育成について

【調査概要】UEDAなっば工房の概要説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

- ・大和高田市松塚で、28年農業をしてきた。現在、軟弱野菜、コマツナ、シロナ、大和まなを栽培している。農地は約5haで、自家所有と近隣の農家からの借地。
- ・野菜の他に水稻栽培もしており、主に酒米を栽培している。
- ・就労人数は、本人を含む15人。5人（本人以外に、配偶者、両親、次男）、6人（常時雇用、知的障害者3人を含む）、4人（臨時雇用）
- ・経営規模は1,580a（施設480a、露地1,100a）
- ・販売は量販店を中心に契約出荷が9割。東京大田市場へも定期的に出荷。学校給食、レストラン、県内の直売所。
- ・軟弱野菜は、夏は生育が大変早く、コマツナや大和まなは、約1ヶ月で種まきから収穫ができる。冬は100日ほどかかる。そのために農地を確保しないといけないので、夏場は米を作っている。米を作ったあと、裏作として、コマツナ、大和まなを作り、冬の生育が遅い時に安定して出荷できるようにしている。
- ・10年ほど前はハウスがほとんどなかったが、最近天候が不安定なので、安定的に供給し、契約した数量をきちんと納められるように、露地とハウスを合わせて生産し、計画的に出荷できるようにしている。
- ・作った野菜をPRするため、また今後農業の担い手となってくれるよう、地域のために大和高田市内の小学校に出向いて、軟弱野菜の生産や大和高田市の農業、奈良県の農業について講義をしている。
- ・大和まなを知らない人もいたので、奈良県農林部で大和まなを伝統野菜としている。
- ・担い手不足と言っているが、常時雇用6名も若者なので、若い世代に農業の魅力を伝えて、奈良県の農業、大和高田市の農業を盛り上げたい。
- ・平成25年度より、JAならけん高田支店軟弱野菜部会会長をしており、妻は平成24年度より県女性農業士として、農業女性の地位の向上に取り組んでいる。

【質疑応答】

Q：大和まなは、奈良県の農業のチャレンジ品目に入っている。UEDAなっば工房のようにがんばっているところがもっとふえればいいと思う。どの程度県内で広がっているか。

A：中部管内で大和まなを栽培しているのは、平坦では上田さんのところである。大和高田市は軟弱野菜として、ホウレンソウ、春菊、コマツナの栽培を進めている。県内では、大和まなを作っているのは、大和高原南部宇陀市、桜井市で広がりがある状況。

